

真田図書館サポーターだより 第20号



一年を振り返って (2023.3.23)

真田図書館サポーターの会 会長 若林雅一

三年越しのコロナ禍により、一年の事業計画策定のための重要な会議である総会が、会員相互の顔を合わせながら決めることができなくなり、文書評決により会長としてのスタートを切らせていただきました。おかげさまで一年がようやく終わろうとしています。

何よりも、サポーターの会の礎を築いていただいた、渡辺前会長・小金前業務部会長・中沢前運営部長の退任を惜しみつつ、そして行動を共にしながらもご退任された方々には、心からの敬意と感謝を申し上げ、今後も更なるご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

世の中では各種イベントが自粛を余儀なくされましたが、感染レベル低下等の間隙を縫って、比較的安全な時期を見定め、感染対策を講じながらも実施できるものは実施するとした会員総意のなか、感染例もなく一定の成果は得られた一年であったのかなと振り返りつつ、会員と関係者皆様のご協力の賜物と心から感謝を申し上げます。

長かったコロナ禍も、上田市では感染者が2桁台と減少し、令和5年5月8日からはインフルエンザ相当の5類に分類されることになり、ひとまずの終息感が漂いつつあり、このまま収束していくことを願わずにはおられません。しかし、人の往来が増える年度替わりは感染リスクが高まるとの指摘があり、未だ予断は許せない状況かもしれません。

団体の勢いは一般には10年が筋目と捉えられておりますが、サポーターの会は結成してから13年目を経過しようとしています。これまでは衛生管理の重要性を踏まえて、飲食等のイベントは自粛中止として参りました。今後は高齢等による会員の減少化に対応するためもありますが、業務部会と運営部会が一体となりイベント運営に臨みたいものです。

また、毎年県内出身の一流演奏者のコンサート開催や会員の勧誘等、会の存続更には発展を図るための新たな試みに努めてまいりましょう。

時代小説を楽しむ -藤沢周平の世界-

講師：龍野 彰宏氏(株式会社タツノ元相談役)

第1(6)回：5月28日(土)「真骨頂・傑作短編」(27名参加)

第2(7)回：6月25日(土)「捕物帳」(24名参加)

第3(8)回：7月23日(土)「真田・信州・自然・ふる里」(24名参加)

令和3年度にコロナ禍により延期していた真田塾「時代小説を楽しむ-藤沢周平の世界-」講座を5月から再開しました。

藤沢周平の時代小説の世界を、細やかな時代風景とともに解説していただき、その小説の奥深さを感じる機会となりました。

【講座の様子】



【最終回に記念撮影】

龍野氏には資料などを御自身で用意していただき、御礼に委託事業予算からトウモロコシ（みどりの大地）をお持ち帰りいただきました。



真田塾

真田戦国トークショー＆コンサート

9月3日(土) 午後2時～午後3時30分(68名参加)

小栗さくらさん、北織さよさんで構成する二人組の歴史系アーティスト「さくらゆき」さんお迎えし、真田氏に関連する戦国トークショー＆コンサートを開催しました。



前半のコンサートでは、真田昌幸・信之・信繁を中心にした戦国時代を伝える語り
と、その人物をテーマに制作した曲を披露いただきました。

後半のトークショーは、家康と信之の関係を中心に、お二人の知識と想いを語っ
ていただきました。市内外の真田氏ファンの方や歴史愛好家、さくらゆきさんのファ
ンの方々が大勢来場し、歌に涙する方も見受けられ、その演出に魅了されました。

【受付の様子】



【司会の大塚サポーター】



【会場の皆さんと記念撮影】



【サポーターと記念撮影】



第 12 回図書館まつり

本のリサイクル市・スペシャルおはなし広場

○本のリサイクル市

12月3日(土) 午前9時30分～正午(来場者 83 名)

図書館まつりの第一部として、コロナ禍で中止していた「リサイクル市」を 3 年ぶり開催しました。

事前に多くの方に本の提供をいただき、コロナ禍前に比較すると来場者数は少なかったものの、800 冊程の本をお持ち帰りしていただきました。



○スペシャルおはなし広場

12月3日(土) 午前10時30分～午前11時30分(46 名参加)

①ヒロ・タッキーさん(腹話術ショー)

②ネコリョーシカさん(紙芝居・朗読劇・手あそびうた)



Sanada Library Concert

Duo Twins 真田図書館演奏会

12月11日(日) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 (73 名参加)

図書館まつりの第二部として、昨年に引続き、真田図書館演奏会を開催しました。未だ収束の見えないコロナ禍ではありますが、感染対策を講じながら昨年より多くの定員60名を募集し、開催しました。

今年は、演奏にスタジオジブリの「となりのトトロ」「千と千尋の神隠し」「天空の城ラピュタ」の曲も織り交ぜていただき、和やかな雰囲気も演出していただきました。

NHK 交響楽団に所属されているチェロ奏者の西山健一さん(兄)と、弟でコントラバス奏者の西山真二さん(弟)の演奏を今年も間近で聴くことができ、師走の気忙しいなか、心安らぐひとときでした。



林サポーターさんの司会進行は、テレビのクラシックコンサートの司会者を見ているような感覚にさせていただきました☆彡



アンコール曲の「ふるさと」
「ジングルベル」も良かった
なあ ♪



真田図書館ボランティア講座

絵本×大道芸ミニライブ&読み聞かせ講演会

2月4日(土) 午後1時30分～午後3時30分(43名参加)

3年ぶりに開催したボランティア講座！



大道芸人オマールえび(鈴村仁志)氏を講師に迎え、絵本の読み聞かせに組み合わせた大道芸パフォーマンスと、読み聞かせに対する熱い想いとテクニックなどについて講演をしていただきました。おはなし会の方々も大勢参加し、熱心に聴講していました。



大道芸人オマールえびさんの講演をお聞きして

ミミールの会 大久保順子

私がこの講演に参加したいと思ったのは、チラシを見てオマールえびさんの体型が目にとまり、次に大道芸？何これ？どんな読み聞かせ？どのように演じられるのかと興味がわいたからです。

今まで私が参加した朗読会は、読み手が静かに本の朗読をしている姿でした。しかし、オマールえびさんはいきなり手品を始め、絵本に集中させました。そして、小さな子供さんに語りかけるように「おいしい帽子」をBGMを流しながら朗読してくださいました。え？BGMと朗読？衝撃が走りました。また、コーンを自由に操り、参加者を引きつけた後、とても静かで心地よい、邪魔にならないBGMを流しながらの「花さき山」を朗読。朗読会の後は、「魅せるよみきかせ」と題し、押しつけではない一緒に作っていく読み聞かせのコツを教えてくださいました。

心に残るとても貴重な体験をさせていただき、孫を誘ってくれば良かったとつくづく思いました。またお会いできる日を心待ちにしています。ありがとうございました。



好きな一冊 「心の風物誌」 島崎敏樹(1912-1975 年)著

図書館サポーター 林良

「心の風物誌」(1963 年発行)は、短編のエッセイ集なのですが、その中で私が何度も何度も気に入って読んでいる作品を紹介します。

タイトルは「鈍行列車にのるために」です。



(鈍行列車にのるために)より抜粋

『～時刻改正のため今はなくなったが、信越線にとってもおおらかな列車があった。上野を朝六時半ごろたつ鈍行で、長野どまりなのか、直江津あたりまでたどりつくのか、とにかく私は上田でおりるので、さきはどうでもいい。』

上田にいくのに、九時半ごろでる急行「白山」にのると四時間でつくのだが、朝六時半にたつ無名の鈍行でいくと、まず似た時間に目的地にとどくのだから、本当におおらかである。

～この汽車は横川に三十分ほどいてくれた。晩秋の日など、ホームにでて日なたぼっこしながら、もみじがすぎてわびしくなった妙義あたりの山をながめているのは本当にいい。ながめにあきたころは、ホームの売店で例の名物ソバを立食することである。五分やそこいらの機関車つけかえの時間を気にしながら、地団駄をふむようなかつこうでせわしくすするソバと、そのタマゴもひとつ割ってくれませんかなどと注文しながらゆっくりもぐもぐやるソバとでは、心理的にも生理的にもちがう。～』

私が若かった頃は、軽井沢を「かるいさわ」と呼んでいました。最近は多くの方が「かるいざわ」と呼ぶようになったり、鈍行列車という言葉すら耳にすることが無くなってきて、少し寂しい気がします。

上野駅の中央改札口から少し時代遅れの車両に乗り込むと、車内はもう上田という故郷の匂いがするようでした。横川で一杯のかけそばをすすると、もう少しで県境です。一刻も早く上田に着きたい気持ちとは逆に、自分がまるで都会人にでもなったかのように涼しい顔をしてしまいます。上田駅では駅員さんが改札で「お疲れ様。」とにっこり微笑んでくれ、その瞬間に長い旅の疲れが吹っ飛んでしまいます。

今は、自動改札やスマートフォンをかざすだけでことが足りる時代。あの懐かしい列車の音と、立ち食いそば屋のかつおのだしが温めてくれたあの時代に戻りたくなるエッセイです。

「おはなし広場」を担当して

丸山友希（図書館司書）

令和4年度4月から真田図書館に採用され、瞬く間に一年が経過しました。サポーターの皆様や他の図書館員の助けを得ながら、どうにか図書館業務をこなすことができています。ありがとうございます。

今年度は、おはなし広場の担当となったことが大きな経験となりました。新型コロナウイルスの再流行で中止せざるを得ない月もありましたが、12回中9回開催できたのは、令和になってから初めてのことです。おはなしボランティアの皆様の熱意ある演目に、おはなし広場に参加してくれた子どもたちは、毎回「楽しかった!」と笑顔を見せてくれました。保護者の方からも、「幼児から児童まで参加できるイベントはまだ開催が少なく、こういった催しがあるのは助かる」「また参加したい」というお声が寄せられています。また、大人の方のみのご参加も散見され、子ども向けでないおはなし広場の懐の深さを感じました。

令和5年度は、参加者の皆様もおはなしボランティアの皆様も楽しめる場になるよう、調整に努めてまいります。皆様のご参加をお待ちしております。

最後になりましたが、サポーターとしておはなし広場で受付を担当して下さった木島紀美江様、長年にわたりのお手伝いありがとうございました。



【おはなし広場受付の様子】



（写真左から 丸山司書、木島サポーター、大塚サポーター）

レファレンスって？

増田和（図書館司書）

ある日、真田図書館に『渋沢孝輔氏が1960年にポーランドに行ったという話を聞いたので、論拠を得たい。』という一本の電話による問い合わせがありました。

「図書館などで、利用者の問い合わせに応じ、図書の照会や検索をする業務」をレファレンス(Reference)と言います。「この作者のこういう本が読みたい」「真田氏について調べたい」「この前テレビで紹介されていた本が読みたい」などなど多種多様な依頼があります。これに出来得る限り対応していくのが図書館職員の仕事のひとつです。

渋沢孝輔氏は旧真田町出身のフランス文学者で、真田図書館にはご遺族のご厚意により980冊を超える貴重な蔵書を寄贈いただいています。

さて、渋沢氏がポーランドに行ったというのはどう調査すべきなのか。まずは一番本人に近い資料、つまり渋沢氏本人が書いたモノをあたりました。そこで、渋沢氏のエッセイ『花後の想い』を調べます。そうすると、「1970年に初めてヨーロッパに行った」という記述がありました。ポーランドはヨーロッパに属するわけですから、1960年にポーランドへ行ったという情報はどうやら違うようです。

これだけでもいいのですが、もう少し私の推理を固めるために、今度は渋沢氏の年表をあたることにしました。すると、「1970年に私費で初めて渡仏」「1975年にポーランドの国際美術評論会議へ出席した」との記述を見つけました。

ここまで調べることは稀ですが、レファレンスではこのように様々な資料や、時にはインターネットの力を使って調べる事もあります。

レファレンスについてもっと知りたいという方には、福井県立図書館『100万回死んだねこ』がおすすめです。



『100万回死んだねこ 覚え違いタイトル集』

福井県立図書館

「衝撃の巨人」→「進撃の巨人」、「100万回死んだねこ」→「100万回生きたねこ」・・・。
図書館の利用者がうっかり覚え違った本の
タイトルから、司書が正しいタイトルを導き
出した事例集。

編集後記（2023.3.23）

図書館サポーター 荒木浩二郎

コロナ対策も緩和されてきました。ボランティア活動の本来の目的もさることながら、仲間との語らいも大きな楽しみです。これからは暖かくなるので換気しながらお話ししましょう。きけば心身の健康に多くのコミュニケーションの場を持っていることは強みになるようです。家庭でむしゃくしゃすることがあっても、図書の仲間と話をして愚痴をきいてもらおうと、そのことも少し客観的にみることもできるかもしれません。という私の愚痴もきいてくださいね。

だいぶ利用者も増えてきたとは思いますが、真田図書館はこんなものではないと思います。なんでもっと来ないのかなあ、と知り合いにインタビューしてみました。本？あんまり読まないなあ、ネットで知りたいことはわかるし、欲しい本はアマゾンで買えちゃうし、という答えでした。図書館の価値を知らないんです。一度来てみてくれ、と言いました。何なら私が案内しますから・・・縁故ビジネスですねえ。でも来ればこんな本もある、こんなに簡単に借りて読めるの？と驚くと思います。

ぜひ皆さんも縁故でもいいじゃありませんか、草の根といえどもうちちょっとイメージはいいでしょうか、ご家族、お友達、親戚、・・・を図書館に誘ってみてください。そしてよければサポーターにも☆



【荒木サポーター】



【おはなし広場の様子】

（事務局より）

※有線放送最後の「図書館サポーターの会から」の放送ありがとうございました。

令和5年度から上田市図書館協議会委員に就任させていただきます。